

☆☆図書室だより☆☆ ☆第31号☆  
☆☆ー 図書委員会よりお知らせ ー☆☆



2018年 11月(後期)～ 2019年 4月(前期) 新規登録書籍をご案内します

書名 (ご寄贈書)	著者名など		
贖罪信仰の社会的影響 旧約から現代の人権法制化へ	青山学院大学総合研究所 キリスト教文化研究部 編	教文館	[赤 191.2 A]
☆ 第1章は 大島力先生の「苦難のメシアと共同体ーイザヤ書における贖罪論の背景と展開」です。			
いつも喜びをもって	加藤常昭 著	教文館	[緑 198.34 Ka]
説教黙想 アレタイア 2019年2月特別増刊号 死に勝つ慰め 葬儀説教をいかに語るか	日本キリスト教団出版局		[緑 198.34 Ni]
使徒行伝・十戒・主の祈り 上	加藤常昭 著	教文館	[茶 196 Ka 6]
下	加藤常昭 著	教文館	[茶 196 Ka 7]
キリスト教主事の50年	全国キリスト教教育主事の会 編 発行		[茶 197 Ze]
プロテスタント教会の礼拝 その伝統と展開	J・F ホワイト	日本キリスト教団出版局	[茶 198.36 Wh]
聖書 聖書協会共同訳		日本聖書協会	[橙 193 Ni]
阿佐ヶ谷教会の歴史を生きた人々(IV)		日本基督教団 阿佐ヶ谷教会	[茶 198.32 Ni 4-1]
〃		〃	[茶 198.32 Ni 4-2]



ご紹介本

青山学院大学宗教部長 大島 力

『キリスト教名画の楽しみ方 復活』

高久真一 著 日本基督教団出版局 [茶 196.7 Ta]

聖書の世界は、「見えない神」の存在を、文字をもって言い表す努力をしている言葉の世界である。しかし、同時に教会はその「見えざる世界」を常に絵画をもって証してきている。本書はそのなかでも「復活のイエス」を何とか表現しようと試みたキリスト教名画を紹介している。圧巻は、レンブラントの『エマオの夕食』である。パンを裂くしぐさを見て復活のイエスだと分かった二人の弟子の大きな驚きと、同じ姿を見ながらもそれとは分からない給仕人の姿が対照的に描かれている。私たちの信仰の目が問われている。

書名 (購入書)	著者名など		
キリスト教カウンセリング講座 ブックレット17 老いを生きる 教会の課題 キリスト者の課題	加藤常昭 著	キリスト新聞社	[茶 197 Ka]
NTJ 新約聖書注解 ルカによる福音書 1～9 章 50節	嶺重 淑 著	日本キリスト教団出版局	[黄 193.63 Mi]
VTJ 旧約聖書注解 出エジプト記 19～40章	鈴木佳秀 著	日本キリスト教団出版局	[黄 193.21 Su 2]
ATD 旧約聖書注解 4 民数記	アルトゥール・ヴァイザー 監修	ATD・NTD 聖書註解刊行会	[黄 193.21 A 4]
聖書 聖書協会共同訳 旧約聖書続編付き 引照・注付き		日本聖書協会	[橙 193 Ni]

(←裏へつづく)

# 『キリストは甦られた』

R.ランダウ 編 野崎卓道 訳 教文館



## 『20世紀レント・イースター名説教集』

この本には、20世紀を代表するドイツ語圏の神学者・説教者が語った、キリストの受難から復活に関する説教28編が収められています。説教が聞こえてくるかのような、野崎卓道先生の素晴らしい翻訳です。

読んでいるうちに、自分が受難物語のどの場面にいるのか、登場人物の誰に等しいのかと考えさせられ、どの場面の、イエス様以外のどの人物にも当てはまると思うにいたりしました。主イエス・キリストの受難と十字架の死と復活が福音の本質であることを改めて思います。

読み応えがあるので精読して読んでいくと、なかなか先に進みません。受難がずっと続いてようやく復活に至る、という感じでした。それもこの本の味わいかもかもしれません。

(シオン会 YY)



# 『わたしはよろこんで歳をとりたい』

イェルク・ツィンク 著 こぐま社  
真壁伍郎 訳 [青 194 Zi]

この本の出版に当たっては、3人の人が関わっている。著者のドイツ人神学者、J. Zink (1922-2016)、この本の日本語訳を強く希望した派遣宣教師、Ruth Hetcamp (1932~)、実際の翻訳に当たったドイツ語学者、真壁伍郎 (1936~)。この本には、美しい写真とともに、平易な言葉で、老いの日常の風景、老人の心理が描かれている。たまたま私は、翻訳者の妹さんと知り合いで、出版前の下刷りを見せてもらって仰天した。

年進んで何もかも思うように行かず、孤独で寂しい老年生活であっても、〇〇しなくてはならない、というような義務感をもたず、ただそこにいるだけでよい、この一日を神に感謝して過ごそう、というメッセージに励まされた。「老いを生きるということは、人生の4番目の季節を生きることだ。わたしたちは、その季節を一步、一步知ってゆく。わたしはよろこんで歳をとりたい。」という力強いメッセージは、われわれ信仰者に希望を与えてくれる。

(M. T)



# 『女の一生 一部・キクの場合』 『二部・サチ子の場合』

遠藤周作 著 新潮社  
[黒 913.6E1・2]

長崎の歴史小説です。まっすぐに正義に向かって生きている青年達が迫害の時代に翻弄されていく、人間の信念と弱さがいり混じる光景には残酷な表現が多いですが、それを愛と信仰が包んでいる美しい物語です。

(一部より) 「…聖母像は大きな眼に涙をためたまま、強く強くうなずいた。…あなたの悲しみと、辛さとが…すべてを清らかにしたのです。あなたは少しもよごれていません。あなたはわたくしの子と同じように愛のためにこの世に生きた…」

(二部より、修平の詩) 「…あたかも戦のなきがごとく 陽をあび風とたわむれん あたかも戦のなきがごとく 詩をよみ文を味わわん…」

「潜伏キリシタン関連遺跡」が世界遺産になった折、遠藤周作氏が心の故郷とした長崎をあらためて巡礼したいと思いました。

(Ri)

書名 (購入書)	著者名など		
女の一生 一部・キクの場合	遠藤周作 著	新潮社	[黒 913.6 E 1]
〃 二部・サチ子の場合	〃 著	〃	[黒 913.6 E 2]
MARCH [マーチ]	2 ワシントン大行進	ジョン・ルイス 他 著 ネイト・パウエル 画	岩波書店 [青 316.853 Le 2]
〃	3 セルマ 勝利をわれらに	〃	〃 [青 316.853 Le 3]